

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272100243		
法人名	社会福祉法人 吉賀町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームあさくら		
所在地	島根県鹿足郡吉賀町朝倉803		
自己評価作成日	令和3年10月7日	評価結果市町村受理日	令和3年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和3年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者それぞれの想いや大切にしていることの把握し、その人らしく生活できるよう支援することに努めている。個人個人の能力に応じてできること、得意なことをホームでも続けられ、自分の持てる力が発揮できるよう支援している。入居者と職員との信頼関係を構築すること、支援する 支援される関係のみではなく、対人関係を構築することで、お互いが声をかけやすい馴染みの関係ができるよう努めている。コロナ禍ではあるが、感染対策に気をつけながら、地域との繋がりがりや関係を維持するため、できる限り地域行事やサロン、認知症カフェへの参加に努めている。また畑で育てた野菜を食事に取り入れたり、毎月の行事には入居者様とともに食事やおやつを手作りし、家庭的な雰囲気の中皆さんが落ち着いて生活できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念を定期的に会議で確認し、目につく場所にも掲示して日常的に意識づけをしている。利用者一人ひとりを尊重しその人の立場に立って考えるよう心がけ、自分でできることは時間が経たなくてもやってもらい、得意とすることがあればしてもらいように見守りながら支援している。集団生活で思い通りに行かないこともあるので、利用者の〇〇したいとの思いを大切に、できる限りのことは叶えてあげたいと考えている。コロナ禍で面会や外出の制限の中、今年は敬老会の様子を録画編集して家族にリモートで観てもらおう企画、ガラス越しの面会も継続し関係が途切れないように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議の場で定期的に理念の確認をするとともに、パーセンドケアに沿った生活支援となっているか話し合い、意識の共有に努めている。	目につく所に掲示して意識づけを図っている。会議の場では利用者一人ひとりを尊重しその人の立場に立った支援となっているか話し合い、意識を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ではあるが、できるだけ地域のサロン、認知症カフェへの参加はしている。交通安全週間には立哨に参加。地域の方が声をかけてくださり、気さくに話をしてくださる。	地域のサロンや認知症カフェにできるだけ参加するようにしている。地域の人が庭で育てた花を定期的に届けてくれたり、交通安全の立哨に継続して参加するなど日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であり、以前のように場所の提供はできていないが、年に2回の交通安全週間には職員全員が毎朝交替で立哨を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状報告、、行事報告、ヒヤリハット等の報告や現状課題などを開示し、いただいたアドバイス、助言は会議などで報告し、サービスの向上に活かしている。	コロナ禍で参加者は少ないが、利用者の様子や取り組みを伝えている。転倒事故など日常のありのままを伝えて実情の理解が得られるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席時や介護認定更新の調査時には情報交換を行っている。吉賀町独自の補足給付制度により利用者負担の軽減に繋がっている。	日頃から連絡を取って状況を伝えている。運営推進会議への参加や介護認定更新調査日は関係者で情報交換し、町内の現状を知る機会にもなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月安全管理、虐待防止委員会を開催し身体拘束、権利擁護についての研修にも参加している。	毎月委員会を開催し身体拘束にあたる事案がないか確認し、話し合いをしている。職員は声かけや対応が適切ではないか、常に考えながらケアしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議の場で確認している。グレーゾーンについての検討も合わせて行っている。高齢者虐待についての研修へ参加し、正しい理解と知識の習得に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での権利擁護の研修会に参加し職員が学びを得ることができるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に沿って説明をしている。本人はもとより、ご家族の不安や疑問点については随時、伺うようにしている。法改正時には書面での説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族会の開催、担当者会議の開催は行っていない。電話や書面で意見や要望を伺うようにしている。	行事や会議への参加はできないが、便りや会議報告書で現状を伝えている。希望の家族にはガラス越しの面会をしてもらい、現在の法人の対応を理解、協力してもらうよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で意見交換ができる機会を設けている。申し送り時などにも聞き取り、所属長会議時に報告し、法人内で共通認識、連携ができるようにしている。	会議や申し送りだけでなく日常的に気づきを伝え合っている。管理者からも積極的に聞いたり相談し、意見を運営に反映させている。どの職員も意見を言いやすいよう雰囲気作りを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で開催されるメンタルヘルス研修への参加やストレスチェックの実施、メンタルヘルス相談窓口の設置など、職員が健康に働ける環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修への参加ができるようにシフトを調整している。職員が研修に参加した後に事業所内で報告会や勉強会ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で圏域のグループホーム交流会への参加はできていない。交流としてお便りを毎月送付して下さる事業所もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームでの生活風景を見ていただいて安心して入居できるよう努めている。本人の入居前生活状況を踏まえ、継続した生活が営まれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談を行い、在宅での生活状況や生活歴、困りごとなどをお聞きし、ホームでの生活について要望などを伺いながら、関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅時の担当ケアマネジャーやサービスの提供事業所に状態を確認し、必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な会話や様子から本人の想いにより添えるよう努めている。様々な生活の場面でそれぞれの力が発揮できるよう協力しながら作業をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りに生活の様子を伝えている。また日頃から随時電話でのやり取りをし、相談をできるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のサロンへの参加や馴染みの美容院へ出かけるなどを行い、地域との繋がりが継続できるよう努めている。	出身地区のサロンや馴染みの美容室へ出かけて繋がりが継続している人もある。配偶者の臨終や葬儀に利用者の希望に沿うよう同行支援をした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の場での作業の時など一緒にしていただけるよう配慮している。作業中には職員が付き添いをする事で会話を助けやコミュニケーションを援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院され退所されるケースが多く、ホームとの関係性が維持されることは少ない。町内で出会ったりした時には声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の確認をする時には本人が落ち着いて話せるように配慮し居室など静かに話せるようセッティングしている。本人の話だけでなく今までの暮らし方や生活習慣を家族に聞いたり、言動や様子などから判断し意向に沿えるよう努めている。	落ち着いて話ができるよう静かな環境の中で、分かりやすい言葉かけをして話を聞いている。利用者の「〇〇したい」を大切に、できる限りのことは支援したいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの聞き取りなどにより情報収集ができるように努めている。センター方式の様式の活用により生活歴や本人のことをよく知ることを意識的に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族様からの情報収集とともにセンター方式の様式や日常的に観察を継続していくことで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ禍であり、以前のように面会ができていない。おたよりや電話でのやり取りの中で支援方針を相談し、介護計画を作成している。	日頃から気になることはその場のメンバーで話し合い、職員会議で全員のモニタリングを行っている。家族には便りや電話で確認して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年度より記録はほのぼののタブレット端末から入力することとなり、24時間シート方式の記録はしていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化には業態や人員不足により取り組めていない。突発的で必要な支援やニーズに対しては、勤務変更や職員間で協力し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民や近くの郵便局の協力を得て入所者が散歩している時に声をかけて頂いている。運営推進会議に出席している公民館長や役場職員から地域行事や防災情報を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での受診はできていないが、家族の同意のもと訪問診療を行えている。入居者の状態に合わせて医療機関を選択している。	毎月協力医による全員の訪問診療や、状態に応じて外部の医療機関に受診し適切な医療が継続して受けられるよう支援している。外部への受診は職員が同行し、必要があれば家族の協力も得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による健康チェックを行っている。日常の変化や情報の共有を随時行い、相談し、適切な受診に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院の地域連携室と連携をとり、情報交換を行っている。入院時には家族の意向を速やかに病院に伝え、できるだけ早い段階での退院ができるように調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じて、主治医、家族とカンファレンスを開催し、ホームでの生活が本人にとって有効かどうかを話し合いをしている。重度化や終末期に移行する可能性がある時には他施設へ生活の場を移せるように連絡調整に努めている。	利用者の状態の変化に応じて関係者で話し合い、事業所での生活が困難となった場合、他施設や医療機関などに生活の場を移して過ごせるよう連携して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防分遣所の協力を得て救命講習や防火訓練時に避難訓練等に取り組んでいる。看護師に協力を得て、急変時の対応や応急処置の方法など指導を得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の災害時対策マニュアルに沿って、防災計画に基づき避難訓練をしている。災害時や水害の時の危険場所などの情報や助言を地域の住民の方や公民館長から得ている。	法人の災害対策マニュアルに沿って、夜間を含む定期の避難訓練を実施している。地域住民の参加や公民館からの情報も得られ協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護の観点からそれぞれの場面での声掛けは適切であるか職員会議の場などで話し合っている。	声かけや対応は適切か日頃から話し合っている。排泄支援では他の人に気づかれないように利用者同士の相性も考慮した席の配置をするなど留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の内的世界へ寄り添いながらお話を傾聴するようにしている。自己決定がしやすいような会話の糸口を示したり、働きかけをすることで、その人らしさを表出できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外は基本的には時間を決めておらず、本人の過ごしやすいペースでの暮らしを支援している。随時本人の過ごしやすいペースでの暮らしを支援している。随時本人に希望を伺い、それに添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時にはお化粧品をして頂いたり、行きつけの美容院へ出かける等身だしなみができるよう支援している。それぞれの好みの衣服と一緒に選ぶ等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で、現在は職員と一緒に食事を摂ることができていない。食事は外部委託にしたことで、一緒に調理をする機会は減っているが、毎月1回～2回誕生日には一緒に調理したり、随時畑でできた野菜を使った食事を楽しんでいる。	食事は外部委託をしているが、誕生日や行事で利用者の希望を聞いたり、畑で収穫した野菜を用いたメニューを提案して一緒に準備するなど、楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者それぞれに合った食事の量や好みの飲み物を提供している。水分摂取や食事量などの把握に努めている。お茶を飲まない方にはイオンサポートゼリーを作り提供するなど水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアができるように促している。できるだけ、自分のペースで口腔内の清潔が保持できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄リズムや尿量に合わせたパットや必要に応じて紙パンツを使用している。利用者ごとの排泄パターンの把握に努め、紙パンツから普通のパンツに変えたり、失禁用パットを提案したり、不快感のないように努めている。	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、状態に合わせてパットや紙パンツ、普通の下着を使用している。転倒リスクも考慮して夜間のみポータブルトイレを使用する人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や水分摂取など意識的に声掛けをしている。疾患との関係など訪問看護師や、管理栄養士等と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴はできないが、入浴の時間はリラックスできるように意識してゆったりとできるような関わりが持てるようにしている。入浴者ごとにできるだけ希望に沿った回数の実施ができるよう努めている。	毎日の入浴はできないが、希望があれば時間を考慮している。体格の大きい人は肩からお湯をかけたり、シャワー浴の場合は足浴も並行して行い、身体全体が温まるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や個々の体力に応じて日中の休憩時間を意識的に設けている。活動と休息のバランスをとり、メリハリのある生活が送れるよう努めている。夜間は利用者の状態によって巡視回数を増やしたり、室温調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今年度より、薬剤師に1週間分の薬剤を1日毎の薬箱にセットしてもらい、そこから職員が朝昼夕の薬箱にセットしている。服薬内容が把握しやすいようにファイルにとじ、全職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことが活かせるよう能力や生活歴に応じたことをしていただいている。今までの生活の中でしていたことがホームでも続けることができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者によっては「家に帰りたい」との訴えがあることもあるが、コロナ禍であり実施できていない。現在、定期受診や散髪などの必要な外出支援のみ実施。今後状況をみながら、地域行事への参加、家族様との交流支援を行っていきたい。	定期受診や散髪など必要な外出支援の他、天候の良い日は一緒に洗濯物を干したり、畑の作業をしたり、近所を散歩して外気に触れる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段から自分でお金を所持している方はおられないが、外出時には自由に買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いていただくことはできないが、贈り物が届いたりしたときなどお礼の電話をしていただき、元気な声を聴いて安心していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域の方から定期的にご自分の家の庭で咲いたお花を提供していただいております、その花を共に生けたり、一緒に折り紙をして飾ったり、空調、換気扇や照明のメンテナンスを定期的実施している。	地域の人から貰った花と一緒に生けたり、利用者の作った作品を飾って、利用者と共に環境作りをしている。施設内のメンテナンスも定期的に行い居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のスペースには馴染みの関係の利用者が一緒にくつろげるソファを設置し、一緒にくつろげる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族の方をお願いして、可能な限り、家で使っていた馴染みの家具や物を居室に持ち込んで頂き、自分の家と認識していただけるよう努めている。	生活動線に合わせて家具が持ち手や支えになるよう配置したり、これまでの生活スタイルに合わせてくつろげるような空間になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の生活状況に応じた安全な生活環境となるよう努めている。できることに着目し、自分の居室を職員と一緒に掃除して頂いたり、洗濯物を干す、たたむ、しまうなど一連の動作をして頂いている。		